

高野伸生委員 ゲリラ豪雨の緊急対応について質疑をしたいと思います。

先週台風 15 号が来ました。また、9 月の初めにも台風 12 号が来ました。近畿では奈良、和歌山周辺が大変な大雨で甚大な被害を受けたと。また、15 号のときは、名古屋市内の河川が危険水位を上回り、一時的には約 100 万人の方が避難勧告を受けたということで、地球環境の変化による、日本もいよいよ亜熱帯的な気候変化が起きてきているんじゃないかと。

台風というのは、一たん上陸しますと普通はスピードが上がってすぐ日本の本土を抜けていくんですけども、最近の台風は本土に上陸したらそのまま停滞してしまって、そこで集中豪雨を降らせて大きな被害を与えるという、そのようなパターンであります。

ただ、台風というのは、もう事前にこういうコースで来るとある程度理解できてますし、それなりの防災対策というんですか、それなりの基本的な部分是对応、準備というのができるんじゃないかと思いますが、きょう、私がこの質疑で取り上げたいのは、実は 8 月末に、具体的には 8 月 27 日の土曜日でございますけれども、ゲリラ的な集中豪雨が大阪市内で発生いたしました。当日、私も朝から野外でイベントがありましたので結構外に出ておったんですけども、朝は、午前中はきょうのような快晴がずっと続いておりました。昼から突然何か曇り空になってきて、午後 2 時か 3 時ごろから突然大雨が降ってきて、それも極端な雨が降ってきて、市内にいろんな浸水の被害を及ぼしたということでございますけれども、まず、当日 8 月 27 日のこのゲリラ豪雨ですね、大阪市内の被害状況と、そして私の地元の住之江区には住吉川とか細江川という河川もあるわけなんですけれども、こういった河川がどんな状況であったのか、建設局にお尋ねしたいと思います。

二ノ形建設局管理部事業所担当課長 お答えいたします。

平成 23 年 8 月 27 日の豪雨では、午後 2 時 4 分に大雨洪水注意報、午後 3 時 5 分に大雨洪水警報が発表され、午後 3 時から 4 時半ごろにかけて短時間に集中豪雨がありました。大阪管区気象台では 1 時間に 77.5 ミリ、10 分間に 22.5 ミリの雨量を観測するなど、本市の下水道整備の計画値としております、おおむね 10 年に 1 回の大雨であります 1 時間 60 ミリを超える雨が市内の広範囲で降りました。

下水道の雨水排水能力を超える降雨であったことによります家屋や道路の浸水被害状況は、床上浸水 96 戸、床下浸水 1,692 戸、道路冠水 49 カ所、鉄道等との交差部のアンダーパスの冠水 27 カ所で行われました。

また、住之江区の住吉川と細江川では、特に被害はございませんでしたが、細江川では河川水位が上昇したため、阪堺電車と住之江工営所の職員が現地で立会監視を行っており、その後水位の上昇もおさまり、電車の通行に支障は出ておりませんでした。以上でございます。

高野伸生委員 今お聞きのように、ほんの2時間ないし3時間の間に相当な雨が降りまして、いわゆる想定外の、これも想定外の災害なんですけれども、津波というのは、先ほどからお話出てますけど、地震が起こりますからある程度津波が来るといのは、時間のあれは別にしまして、あるいはまた大きさは別にしまして予測はできるんですけど、こういうゲリラ豪雨というやつは突然来て突然去っていくというんですか、それがまた極端な降り方でした。

こういうことを考えていきますと、少しでもこの内容が事前に、少しでもですよ、もう難しい話じゃなくて、わかるような方法がないのかということだと思っんですね。テレビなんかでそんな気象情報は出るとは限らない。私も当日覚えてるんですけど、この日の朝の新聞の天気予報では降水確率たしか20%ぐらいで、何か午前中は晴れマーク出とって、昼から曇りのマークが出てたぐらいで、まさかこんな雨が降るとは全くその天気予報では予測できなかったんです。

本市は降雨レーダーというのがございますよね。我々も議員の事務所に、何かそういう台風のとときとかそういうときはファクスで情報をいただいとるんですけども、今回のこの8月27日のゲリラ豪雨ではどの程度の内容がこの降雨レーダーで把握されとったのか。それから一方で、お聞きしますと、これはことしの当初予算で、この降雨レーダーがもう15年ほど経過したんで新しく更新するということも聞いております。この辺もあわせて、どんな状況なのかお教えいただきたいと思っます。

南建設局技術監兼管理部設備管理担当課長 お答えします。

8月27日のゲリラ豪雨では、市の東南部から雨が降り始めまして、時間を追って北向きに雨の範囲が広がるにつれて強くなる様子が降雨レーダーで観測できておりました。しかしながら、古い型式のレーダーでございますので、強い雨の向こう側は電波が弱くなるために、精度が若干低下しておりました。

現在、平成5年度から使用している降雨レーダーを総事業費7億5,000万円で更新中でございます。更新後の降雨レーダーの性能に関しましては、観測周期が1分と、現在のものより短くなります。また、豪雨のときの精度を確保できるようになります。今回のような急激な集中豪雨に対しましても、その移動方向や強さの変化をより正確に推測できるようになります。

これまで降雨レーダーの情報は、建設局の方面管理事務所、工営所及び下水処理場、抽水所の監視室に専用端末を置いて活用しておりましたが、更新後はふだんの事務で使用しております庁内情報用パソコンでリアルタイムに活用できるようになります。

このように、降雨レーダーの性能がアップし、その活用もしやすくなることから、処理場、抽水所の雨水排水ポンプの運転など効果的な浸水被害の予防に一層役立つものと考えております。

また、他の防災関係部局との連携の中で、区役所等における降雨レーダー情報の活用につき

ましても検討を進めてまいります。

なお、市民の皆様にご利用いただいておりますホームページでは、これまで10分間隔で市域単位の降雨情報を提供してまいりましたが、降雨レーダーが更新された後には1分間隔、行政区単位となり、正確な情報をより早く提供できるようになります。

今回のように気象情報で強い雨の予報が出されたときや台風のときには、本市の降雨情報で降雨範囲や降雨強度の変化などを確認していただくことで、突然の大雨による浸水への備えなどにも役立てていただけるものと考えております。以上でございます。

高野伸生委員 実は、私がきょうこの質疑を取り上げることになった理由があります。

当日、やっぱりどっと雨が降ってきまして、下水が逆流してマンホールのふたを持ち上げたんですよね。そのふたが道路のほうへ出てきたんですね。それを見た市民が、実は3件、現実に違う人から3件電話があったんですけど、私の事務所に。これマンホール動いてるよ、何とかせなあかんのちゃうかというて電話いただいた。それで、私自身が建設局の住之江工営所に電話しましたが、電話鳴ってるんですがね、だれも出ないんですよね。それは緊急のことで何か活動してるから出なかったのかなと私は思ってたんですが、後で聞いたら、――これまたまた土曜日だったんですよ、この日ね。休日という扱いなんでしょうけど――そこにおられない場合は、切りかえてそういう宿直センターかどっかにかかるようになってるのに、それが切りかわってなかった。切りかえるの忘れて飛び出したんか何か知りませんが。

市民の皆さんにしたら、これ何とかせなあかんという気持ち、第一発見者ですからすぐ電話いただく、これはありがたいことなんですけど、どこへ電話してええか、こういうのがわからんと。人が倒れてたら、それは119番へ電話しはるし、また何か事故になって車がそのマンホールにぶついたらね、ひょっとして110番へ電話するかわからへんけど、とっさのとき、市民ももうパニックになってますから。こういうやっぱり連絡先というのは、24時間での連絡先というのは整備しとかなあかんの違うかと思うんですけど、この辺、今現状どうなってますか。

二ノ形建設局管理部事業所担当課長 お答えいたします。

建設局では、夜間・休日など執務時間外には、先日のような集中豪雨時はもとより、道路の陥没や下水詰まりなどの市民の皆様からの通報による緊急対応を要する場合に備え、連絡窓口としましてゆとりとみどり振興局、港湾局と共同で常時2名から3名の職員を配置しました宿日直センターを設置しております。夜間・休日などに地元住民の皆様から地域の工営所に電話連絡をいただければ、工営所の留守番電話が宿日直センターの電話番号を案内させていただいており、宿日直センターで問い合わせ内容に応じて必要な対応ができるよう体制を整えております。以上でございます。